



# 私のひとりごと

## 「心の障害者」

現在、福井市に建築現場があり、事務所からその現場までは片道1時間半ほどのドライブとなる。一般道をゆっくりと走ることになるが、これが結構楽しい。敦賀から越前に抜ける海沿いの道は移り行く季節の流れを身近に感じられるので、何度走っても飽きる事はない。また、車内でラジオを聴くのも楽しみの一つで、その日は乙武洋匡さんのトークが流れて来た。乙武さんと言えば生まれつき両腕両脚が無く、障害者としての生活体験を綴った「五体不満足」が500万部を売り上げるベストセラーになった事でも有名で、私もテレビで何度か拝見したことがある。



その喋り方はとても明るくイキイキとしていて、最近お笑いタレントのチャラけた番組（失礼）が氾濫している中、乙武さんの話はとても新鮮で、私の心の中にスッと飛び込んで来た。

その番組の中でパーソナリティの方が彼にこんな質問をしていた。「IPS細胞でノーベル賞を受賞された山中教授の研究によれば、人間の手脚を創る事も可能になるそうですが、それについてどう思われますか？と以前質問された時に、乙武さんは“別に”とお答えになったそうですね。これは以外でした。」という質問であった。その質問に対し彼は、「僕は生まれた時から手脚が無いので、それが当たり前なんです。なので、これまで一度も不自由だと思った事が無いんです。」と答えていた。また、リスナー（ラジオを聴いている人）からの質問コーナーで、「私は生まれつきの障害で脚が曲がっていて、歩く姿をすれ違う子供達がマネをしたり指をさされたりします。乙武さんはどうですか？」という質問に対し、彼はしばらく考えた後、「それは仕方のない事だと思います。僕も立場が変われば同じことをするでしょうし、僕が暗闇からいきなり出れば誰もが驚き指をさすでしょうね。」と答えられた。こんなやり取りでラジオ番組は淡々と進んでいった。

実は私の亡き父も障害者であった。父が5歳の時、高熱により耳の聴覚に障害を受けたことがきっかけで何も聞こえなくなり、言葉も喋れなくなるという二重苦であった。その為、父との会話はすべて手話であった。私は物心ついた時からそういう状況であった為、別段不便だと感じた事はなく、言葉に出して喋りたかったと思った事も一度もない。きっとそれは、言葉でのコミュニケーションを主な手段としている健常者よりも、遥かに心の絆が強かったからだと思う。まして、そのことが私の人生においてマイナスだと思ったことは何一つなく、むしろプラスに働くことの方が多かったように思う。私は現在、神様から五体満足な体をお与え頂いているが、聞こえる耳で人の嫌味を聴き、見える目で人の欠点ばかり見て、喋れる口で文句ばかり言って自分自身の心を曇らせているように思う。世間一般の見方而言えば、私は健常者の部類に入る。しかし、乙武さんの話を聞いていると、私自身は「心の障害者」のように思えてならなのである。

ではまた来月もお会いしましょう。  
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう  
ございました!!

